



ふるさとへ

28

友松 静代さん
(東京都稲成市在住)



おばあちゃんの梅干し

黄波戸を離れて二十八年、その間主人の仕事の関係で北九州市へ海外へ北九州へ東京と移り住みました。その内の二十年は四人の子供の養育に掛りきりで過ごしましたが、一念発起、末子の中学校入学を機にサラリーマン社会に飛び込みました。四十七歳の時でした。レストランがたけなわの昨今、ペテラン社員への風当りは強いのですが(高給のため)、途中入社で程々の給料の私の様な立場は企業にとつて、貴重な存在の様です。

子供を育てながら若い時は、前ばかりを見て生活していましたが、四十代になると足元を確かめ、五十代に入ると後を振り返ることも多くなりま

出口愉三佳(6年)

磯部久美子(5年)

好永 佳織(5年)

代の友人と会う機会も多くなっています。話題もついついタイムスリップしてしまいます。時々旅行にも一緒に出かけ、海岸や山の緑の美しさを探すが、我が故里、山陰の美しさにはどこもありません。

懐かしい黄波戸には母が一人で生活し、子供達の成長を遠くより見守ってくれています。「おばあちゃんの梅干し」は子供達にとって食卓に欠かせない一品で、市販のものには目もくれません。二十八年間送り続けてもらっています。神田小学校にお世話になった事もある長女が、その梅干しを持って六月の初めに嫁いで行きました。段々高齢になっ

日置俳壇

〈兼題〉短夜

短夜や手桶の中の花ひらく 福山スミエ
思わざる友の訃報や夜の短か 古谷 桃月
短夜は波に寝つけぬ旅枕 塩瀬 米江
故里に話題は尽きず夜の短か 柚花 岩門
明け易し函に朝刊すべる音 松岡ヨシ子
短夜や一番列車に目をこす 福山スミエ
旅の夜を話はずみて明易し 宮本やすの
短夜の夢継ぎたして子と語る 富田佳津美

〈雑詠〉

あぢさいや真水の如き色つらね 河内みさほ
すこやかに白寿迎えて更衣 古谷 桃月
でで虫の大きな殻や雨あがり 西村亥子代
捨てかねて仕舞う箆筒え 白石 敏江
一面の植田となりし院の外 池永 君江
大病もせず七十七葱坊主 木村 一路
押車しばしとどめてバラの花 宮本やすの
ペランダに農良着の乾く早苗 富田佳津美

昔を懐しみつつ、新しい日置町、新しい黄波戸を期待して帰郷したいと思えます。「日置町」の益々ご発展を心より祈っております。

筆者紹介

昭和17年生まれ。黄波戸出身。旧姓川内。昭和42年まで萩社会保険事務所勤務。現在ビッグブライダル(東京)勤務。家族は、夫、息子二人と娘の4人暮し。